

品目別レポート（その他の野菜『キャベツ、乾しいたけ』）

〔キャベツ〕

■品目説明

農林水産省による作物統計（2020年8月28日発表）によれば、19年のキャベツ（冬キャベツ）収穫量は前年比4%増の61万4,300トンとなった。収穫量の多かった産地は、愛知県（20万7,100トン）、鹿児島県（5万8,400トン）、千葉県（5万3,300トン）、茨城県（3万8,200トン）などとなっている。

■貿易概況

▼表1：日本のキャベツ（芽キャベツを除く生鮮・冷蔵）輸出

（単位：ドル、トン、%）

	2017年		2018年		2019年		前年比	
	金額	数量	金額	数量	金額	数量	金額	数量
香港	706,544	525	876,485	605	794,836	714	△ 9.3	18.0
シンガポール	364,105	198	449,023	189	540,567	257	20.4	36.0
タイ	82,318	31	116,454	49	68,571	33	△ 41.1	△ 32.7
台湾	740,046	1,089	144,711	162	25,111	38	△ 82.6	△ 76.5
英国	1,868	0	2,288	0	-	-	-	-
全世界	1,904,157	1,848	1,607,542	1,011	1,429,084	1,043	△ 11.1	3.2

注：対象はHSコード 0704.90

出所：Global Trade Atlas（IHS Markit）より作成

19年の日本のキャベツ（芽キャベツを除く）の輸出動向をみると、金額は前年比11.1%減の142万ドル、数量は同3.2%増の1,043トンであった。

主要輸出国・地域の動向をみると、1位（金額ベース）は香港で、金額が前年比9.3%減の79万ドル、数量が同18.0%増の714トン、シェアでは金額で55.6%、数量で68.4%を占めた。2位はシンガポールで、金額が同20.4%増の54万ドル、数量は同36.0%増の257トンだった。3位はタイで、金額が同41.1%減の6万ドル、数量は同32.7%減の33トンだった。上位2カ国でシェア（金額ベース）は93%を占める。台湾向けは、自国産との競合が減るためか日本で高原キャベツが出回る夏期に輸出が多く、香港・シンガポール向けは日本産キャベツの価格が下がる秋から春にかけての時期に輸出が多い傾向がある。

■海外事情

●香港

▼表2：香港のキャベツ（芽キャベツを除く生鮮・冷蔵）輸入

（単位：ドル、トン、％）

	2017年		2018年		2019年		前年比	
	金額	数量	金額	数量	金額	数量	金額	数量
中国	176,785,627	399,799	105,205,047	274,959	108,524,088	283,976	3.2	3.3
日本	1,329,303	515	1,429,828	446	1,653,887	733	15.7	64.3
韓国	17,305	34	3,642	7	84,310	113	2214.9	1514.3
台湾	5,595	7	18,435	30	77,447	111	320.1	270.0
オーストラリア	20,890	7	47,400	30	77,266	43	63.0	43.3
全世界	178,176,948	400,381	106,743,060	275,497	110,443,293	284,997	3.5	3.4

注：対象はHSコード 0704.90-10 Commodity: 07049010, Round Cabbage, Fresh Or Chilled

出所：Global Trade Atlas（IHS Markit）より作成

19年のキャベツ輸入額は前年比3.5%増の1億1,044万ドル、数量ベースでは同3.4%増の28万4,997トンだった。主要輸入相手国別にみると、1位の中国が前年比3.2%増の1億852万ドル、数量ベースで3.3%増の28万3,976トン。2位の日本が165万ドル（15.7%増）だった。

香港では、輸入した生鮮野菜をサラダとして食べる習慣はあるものの、キャベツを生で食べる習慣がほとんどない。日系フランチャイズのとんかつ料理店など一部を除き、炒めるか煮るかして食べるのが通常である。このため業務用を中心に中国産の使用がほとんどであるとみられる。日本産は大玉で安全安心であるととらえられている。

『現地市場価格調査』（ジェトロ、2020年4月）によれば、富裕層向け現地系店舗にて長野県産ラウンドキャベツが半玉で31.4香港ドル（約450円）、中国産が1玉8.9香港ドル（約127円）であった。

●シンガポール

▼表3：シンガポールのキャベツ（芽キャベツを除く生鮮・冷蔵）輸入

(単位：ドル、トン、%)

	2017年		2018年		2019年		前年比	
	金額	数量	金額	数量	金額	数量	金額	数量
中国	21,809,548	43,716	23,874,733	42,171	22,393,337	43,023	△ 6.2	2.0
マレーシア	4,780,189	7,500	5,992,372	9,304	7,038,952	9,953	17.5	7.0
インドネシア	2,850,912	8,448	3,314,268	9,451	2,808,789	8,516	△ 15.3	△ 9.9
オーストラリア	1,969,197	1,074	2,223,551	1,330	1,798,656	1,219	△ 19.1	△ 8.3
タイ	1,075,633	458	1,265,426	579	1,160,482	459	△ 8.3	△ 20.7
日本 (6位)	539,549	273	713,476	273	724,095	323	1.5	18.3
全世界	33,885,832	62,446	38,160,449	63,679	36,763,740	64,110	△ 3.7	0.7

注：対象はHSコード 0704.90

出所：Global Trade Atlas (IHS Markit) より作成

19年の輸入額は前年比3.7%減の3,676万ドル、同数量は0.7%増の64,110トンであった。国別輸入をみると、1位は中国で前年比6.2%減の2,239万ドル、同数量は2.0%増の43,023トンであった。日本は6位で前年比1.5%増の72万ドル、同数量は323トンであった。

〔乾しいたけ〕

■品目説明

乾しいたけは、森林内等においてコナラ・クヌギ等を用いた原木栽培で生産され、気温、降雨等の気象条件によって生産量が大きく左右される（林野庁『特用林産物の生産動向』）。『特用林産物生産統計調査』（農林水産省、2020年8月31日）によると、19年の日本における乾しいたけ生産量は2,634トンで前年比9.8%減となっている。うち菌床栽培は254.8トン、残りが原木栽培となっている。19年生産量でみた主な産地は大分県（948トン）、宮崎県（421.5トン）、熊本県（181.6トン）、愛媛県（127.1トン）などとなっている。

■貿易概況

19年日本の乾しいたけ輸出額は、前年比3.1%増の161万ドル、数量ベースでは同1.9%増の35トンとなった。主な輸出相手国・地域は、首位が香港で前年比2.4%減の89万ドル（シェア55.1%）、数量ベースでは6.7%増の16トン（同45.7%）。2位は米国で前年比104.1%増の22万ドル、3位は台湾で同48.3%増の21万ドルとなった。この上位3カ国・地域による19年シェア（金額ベース）は、69.0%となった。

▼表4：日本の乾しいたけ輸出

(単位：ドル、トン、%)

	2017年		2018年		2019年		前年比	
	金額	数量	金額	数量	金額	数量	金額	数量
香港	988,207	16	915,591	15	893,174	16	△ 2.4	6.7
米国	112,034	3	109,894	3	224,265	10	104.1	233.3
台湾	218,696	5	147,204	3	218,265	5	48.3	66.7
シンガポール	53,500	1	49,347	1	80,943	1	64.0	0.0
マレーシア	14,915	0	25,190	0	69,687	0	176.6	-
全世界	1,514,301	26	1,570,591	31	1,618,533	35	3.1	12.9

注：対象はHSコード 0712.39

出所：Global Trade Atlas (IHS Markit) より作成

■海外事情

●香港

19年の香港の乾しいたけ輸入額は、前年比18.5%減の1億2,467万ドル、数量ベースでは同6.0%増の3万2,834トンとなった。主要輸入相手国の1位は中国で前年比19.5%減の1億1,746万ドルでシェアは94.2%だった。2位はロシアで前年比18.3%増の80万ドル。3位は台湾で同5倍の68万ドルだった。

▼表5：香港の乾しいたけ輸入

(単位：ドル、トン、%)

	2017年		2018年		2019年		前年比	
	金額	数量	金額	数量	金額	数量	金額	数量
中国	92,258,405	24,561	145,977,993	30,477	117,466,605	31,915	△ 19.5	4.7
ロシア	-	-	681,124	272	805,446	322	18.3	18.4
台湾	290,138	22	133,585	22	684,219	48	412.2	118.2
パキスタン	824,629	11	452,581	12	680,842	23	50.4	91.7
オランダ	113	0	157	0	675,496	334	430152.2	-
日本 (9位)	2,529,860	18	800,101	14	597,827	11	△ 25.3	△ 21.4
全世界	99,282,217	24,700	153,019,032	30,970	124,670,219	32,834	△ 18.5	6.0

注：対象はHSコード 0712.39

出所：Global Trade Atlas (IHS Markit) より作成

中国産の乾燥きのこ類は主に業務用として販売されている。中国産乾しいたけに比べ日本産乾しいたけは高額であるが、味、香りともに秀でており、贈答用としての日本産乾しいたけの人気は高い。中秋節・旧正月の贈答用を選ぶ際に、贈答相手への面子を重んじて日本産を購入する香港の消費者による一定の需要は見込まれるだろう。

●米国

19年の米国の乾しいたけ輸入額は、前年比38.1%減の1,603万ドル、数量ベースでは同13.0%減

の1,516トンとなった。主要相手国別にみると、1位は中国で前年比43.0%減の996万ドル、2位はフランスで同58.3%減の131万ドル、3位がドイツで同88.1%増の88万ドル、4位が日本で同2.7%増の62万ドルとなった。

▼表6：米国の乾しいたけ輸入

(単位：ドル、トン、%)

	2017年		2018年		2019年		前年比	
	金額	数量	金額	数量	金額	数量	金額	数量
中国	13,641,623	1,191	17,467,961	1,411	9,962,818	1,253	△ 43.0	△ 11.2
フランス	2,388,428	98	3,145,025	128	1,312,212	49	△ 58.3	△ 61.7
ドイツ	23,579	3	470,417	28	884,701	55	88.1	96.4
日本	595,007	16	609,329	15	625,498	22	2.7	46.7
イタリア	975,806	33	1,121,715	38	526,242	14	△ 53.1	△ 63.2
全世界	19,651,940	1,420	25,876,965	1,742	16,030,690	1,516	△ 38.1	△ 13.0

注：対象はHSコード 0712.39

出所：Global Trade Atlas (IHS Markit) より作成

本レポートに関する問い合わせ先：

日本貿易振興機構 (ジェトロ)

農林水産・食品部 農林水産・食品課

〒107-6006

東京都港区赤坂 1-12-32 アーク森ビル

TEL：03-3582-5186

【免責条項】

本レポートで提供している情報は、ご利用される方のご判断・責任においてご使用ください。ジェトロでは、できるだけ正確な情報の提供を心がけておりますが、本レポートで提供した内容に関連して、ご利用される方が不利益を被る自体が生じたとしても、ジェトロ及び執筆者は一切の責任を負いかねますので、ご了承ください。